

日本からの交換留学生を迎えに、家族と一緒に車を走らせた日のことは、さまざまな感情が入り混じった時間でした。私たちは、それまで一度も会ったことも、話したこともない人を迎えに行こうとしていました。「うまくやっていけるだろうか」と期待と不安で、少し手が震えていました。一方で、世界のまったく反対側から来た人と友達になり、実際に会って、一緒に学校生活を送ることが待ちきれず、顔は自然と笑顔になっていました。しかし、これらの最初の緊張や不安は、これから数週間、親友となる小森志穂さんを抱きしめた瞬間に、すべて消えていきました。日本人と一緒に生活することで、私は日本文化に強い興味を持つようになりました。日本で学校に通うというのはどのようなものなのか、志穂から話を聞き、日本語の簡単な単語や会話を学び、さらに『Landscape of Flatiron』という日本語に翻訳された本も読み始めました。こうした一つひとつの経験を通して、私は日本文化への関心をますます深めていきました。しかし同時に、志穂から聞いた話のように、実際に日本へ行き、日本の学校生活に身を置き、その文化に本当の意味で浸ってみたいという思いが強くなりました。こうした話や経験は、私の世界観や物事の捉え方、そして、この地球上の人々が互いにつながっているということへの認識にも影響を与えました。私の願いは、志穂が話してくれたような日本の学校生活を実際に体験し、日本文化が現実のものとして生き生きと目の前に現れる瞬間を、自分自身で見てみることです。さらに、もしこの奨学金に選ばれることができたなら、アメリカを代表する機会をいただけることを大変光栄に思います。

私はこれまで、公共への奉仕を中心とした活動をしてきました。2年間にわたってクラスの役員を務め、郡全体の会議や Hugh O'Brien Youth Leadership Conference、Yearbooks NCA などでも Del Oro を代表しました。その後は、生徒代表として教育委員会の運営に関わる立場にも進み、自分の仲間を代表する能力を培ってきました。California School Board Association (CSBA) の会議では、知事候補者や教育委員会のメンバーと教育政策について意見を交わす機会もありました。また、生徒教育委員として、仲間たちの声に耳を傾け、彼らが何を望んでいるのかを理解しようと努めました。そして、その意見を実際の形にするため、教育委員会の規則改正を提案し、実際に採用された経験があります。さらに、学校運営協議会や、学区全体で設置された成績評価および民族学習に関する特別委員会でも、仲間たちを代表する活動を行いました。私は CSBA での活動もさらに発展させ、Placer County を代表する 2 名のうちの 1 人として、また Special Education Research Group (特別支援教育研究グループ) で唯一の生徒メンバーとして活動しました。さらに、Placer County で唯一の生徒として Legislative Action Week に参加し、国会議員に対して教育関連法案についての提言活動を行いました。また、State Advisory Board of Education の会議で講演するスピーカーにも選ばれました。さらに、カリフォルニア州教育委員会 (California State Board of Education) の委員候補として、93 名の応募者の中から上位 3 名に選ばれました。その過程で、教育長 Tony Thurmond 氏や州教育委員会 (SBE) のメンバーと会い、California Association of Student Councils からも評価を受けました。最後に、地域の選挙キャンペーンに携わった経験や、California State Seal of Civic Engagement (市民参加活動に対する州の認定) を受けたことも、今回の奨学金に選ばれた際には自分の国をしっかりと代表したいという思いをさらに強くするきっかけとなっています。そして、高校生活を通して身につけてきた、人の話に耳を傾け、相手を理解しようとする姿勢を生かして、日本文化についてさらに多くのことを学びたいと思っています。アメリカを代表する機会をいただき、そして日本の生徒たちがどのような生活を送っているのかを実際に見て、学び、体験できることができたなら、私は生涯にわたって感謝し、その機会を光栄に思うでしょう。ご検討いただき、ありがとうございます。